

August 6, 2020

**【前日の為替概況】ユーロドル、続伸 米国の与野党協議難航や雇用悪化でドル売り優勢**

5日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは続伸。終値は1.1863ドルと前営業日NY終値(1.1803ドル)と比べて0.0060ドル程度のユーロ高水準だった。米国での追加の経済対策を巡る与野党協議が難航するなか、7月ADP全米雇用報告で政府部門を除く非農業部門雇用者数が16.7万人増と予想の120.0万人増を下回ったことが分かると全般ドル売りが優勢となった。ダウ平均が一時390ドル超上昇し、ナスダック総合が連日で史上最高値を更新するなど、米国株相場が底堅く推移したこともリスク・オンのドル売りを誘い、一時1.1905ドルと日通し高値を付けた。ただ、7月31日に付けた約2年2カ月ぶりの高値1.1909ドルがレジスタンスとして働くと1.1855ドル付近まで伸び悩んだ。

ドル円は小幅ながら続落。終値は105.60円と前営業日NY終値(105.72円)と比べて12銭程度のドル安水準だった。予想を下回る米雇用指標を受けて全般ドル売りが強まると一時105.32円と日通し安値を付けたものの、7月米ISM非製造業指数が58.1と予想の55.0を上回ったことが分かると円買い・ドル売りが一服。米長期金利の上昇などを支えに105.68円付近まで下げ渋った。

なお、追加経済対策を巡る米与野党協議の行方に対する警戒感は根強いものの、市場では「米共和党と民主党の協議は続いており、短期間で問題が解決する望みはあまりないが、最終的には合意するだろう」との楽観的な見方が聞かれた。米メディアは「対策規模や失業給付金を巡る措置では隔たりがあるものの、互いに今週中の合意を望んでいる」と報じた。

ユーロ円は続伸。終値は125.28円と前営業日NY終値(124.77円)と比べて51銭程度のユーロ高水準。米国株高を受けて投資家のリスク選好姿勢が強まり円売り・ユーロ買いが広がると、一時125.51円と2019年4月24日以来の高値を付けた。

メキシコペソは堅調だった。WTI原油先物9月限が一時4%超上昇したことを受けて、産油国通貨とされるペソに買いが集まった。ドルペソは一時22.3289ペソ、ペソ円は4.73円までペソ高に振れた。メキシコの代表的な株式指数であるボルサ指数は一時2%超上昇した。

同じく産油国通貨であるノルウェークローネも堅調。対ユーロでは一時10.6171クローネ、対ドルでは8.9187クローネ、対円では11.82円まで上昇した。

**【本日の東京為替見通し】ドル売りトレンドは変わらないか、BOEの政策金利発表も要注目**

本日の東京時間のドル円は、上値が限られる展開になりそうだ。先月からの動きは円高ではなく、ドル安の動きになっている。ドル円だけの値動きを見ると、円高と捉えてしまうが、他のメジャー通貨と比較すると円安になっている。それだけ円買いが遅れているともいえることで、先月末のように遅れを取り戻すように円高に振れることには警戒しておきたい。

ドルの上値を抑える要因としては、複数上げられる。1つ目は新型コロナウイルスへの追加支援策の協議が米議会で難航していること。日本時間早朝にメドゥズ米大統領首席補佐官は「金曜までに明らかな進展が見られない場合は、トランプ大統領は大統領令を発令する準備をする」とも発言している。もし、進展がなかった場合は米議会の混迷が深まるだけではなく、支援策の遅れで経済的なダメージも出てくるだろう。2つ目は米中関係の悪化があげられる。昨日、米政府はアレックス・アザー米合衆国保健福祉長官が台湾に訪問すると発表した。これに対して中国が激しく抗議をしているが、6年ぶりの米閣僚の訪台は米中関係をより悪い方向に導くだろう。他にも新型コロナウイルスの感染拡大や、昨日はいったん落ち着いたが米国債への買い需要など様々なドル売り要因がある。また、本邦の夏季休業を前にして、輸出企業を中心にドル売り需要があることも上値を圧迫することになりそうだ。

一方、ドルの下値を支える要因は、105.50円と105.00円に大きめのオプションがあり、下がった局面ではそのオプションを利用したドル買い需要があることだ。また、昨日ファウチ米国立アレルギー感染症研究所が「年末には数千万のワクチンが準備できる可能性が高い」と発言していることは、米経済には好材料となりそうだ。

なお、昨日の7月ADP全米雇用報告は悪かったが、ADPと雇用統計は相関性が全くないことは過去のデータで証明されている。明日の米雇用統計はトランプ米大統領が「雇用に関し、金曜日に大きな数字がでる」と発言したこともあり、好結果が期待される。ただし、予想通りに好結果が出た場合でも米株は上昇するだろうが、為替市場がドル買いになるかドル売りになるかは定かではない。

ドル円以外では、ポンドの値動きに注目したい。本日、イングランド中銀 (BOE) の金融政策委員会 (MPC) が行われ、政策金利が発表される。市場予想は 0.10% で据え置き、資産買取プログラムも 7450 億ポンドで据え置きとされているが、ベイリー英 BOE 総裁の会見でマイナス金利などを含め、今後の見通しをどのように発言するか注目される。なお、発表時間が東京の 15 時を予定していることで、東京のオプションカットの時間とも重なり、市場はより神経質な動きになりそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

### <国内>

008:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況 (週次・報告機関ベース)

### <海外>

015:00 ◎ 6月独製造業新規受注 (予想: 前月比 10.1% / 前年同月比▲18.5%)

015:00 ☆ 英中銀金融政策委員会 (MPC) 2 日目、終了後政策金利発表 (予想: 0.10% で据え置き、資産買取プログラムは 7450 億ポンドで据え置き)

015:00 ☆ MPC 議事要旨

015:00 ◎ 英中銀 (BOE)、金融安定報告書を公表

015:00~ ◎ ベイリーBOE 総裁、記者会見

015:15 ☆ インド中銀、金融政策決定会合 (予想: 3.75% に引き下げ)

017:30 ◎ 7月英建設業購買担当者景気指数 (PMI、予想: 57.0)

020:30 ◇ 7月米企業の人員削減数 (チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマス社調べ)

021:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数 / 失業保険継続受給者数 (予想: 140.0 万件 / 1690.0 万人)

023:00 ◎ カプラン米ダラス連銀総裁、イベントに参加

07日 01:00 ◎ 7月ロシア消費者物価指数 (CPI、予想: 前月比 0.4%)

### 7日

#### <国内>

008:30 ◇ 6月家計調査 (消費支出)

008:30 ◇ 6月毎月勤労統計 (現金給与総額)

#### <海外>

010:30 ◎ RBA 四半期金融政策報告

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

5日 05:49 中国の崔・駐米大使

「中国政府は領事館の閉鎖合戦を望まない」  
「南シナ海における平和的な解決のために話合う用意がある」

5日 06:24 トランプ米大統領

「雇用に関し、金曜日に大きな数字がでる」  
「給与税の停止を考えている」  
「TIK-TOKの売り上げの多くの割合は財務省に行くべきだ」

5日 06:26 ペロシ米下院議長(米民主党)

「経済対策について明日協議する」  
「(経済対策巡る交渉)一部で少しずつ進んでいる」

5日 21:44 黒田東彦日銀総裁

「当面は新型コロナの影響を注視、必要あれば中銀としてあらゆる手段を躊躇なく講じる」  
「経済主体の問題が流動性から財務健全性にシフトし、経済の下押し圧力が強まらないか注意を要する」  
「公衆衛生上の厳しい措置の再導入なら、経済活動が再び大きく抑制の可能性」

5日 21:48 クラリダ FRB 副議長

「非常に大きなディスインフレ圧力が、世界の金利を押し下げている」  
「米連邦準備理事会(FRB)は、必要ならばあらゆる手段を講じる」  
「米景気が新型コロナウイルス以前の水準を回復するのは、2021年末と予想」

6日 01:43 カプラン米ダラス連銀総裁

「失業給付の上乗せを延長することが重要」  
「景気回復は新型コロナウイルスの状況次第」  
「第3四半期は20%成長を見込む」

6日 02:46 レバノン首都ベイルートのアブド知事

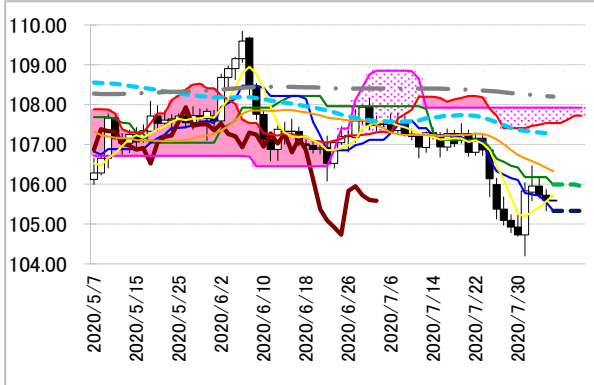
「爆発による被害総額は100-150億ドルに達する見込み(当初の推定は30-50億ドル)」

6日 03:48 米国立アレルギー感染症研究所のファウチ所長

「年末から来年始めには、開発中のワクチンが安全であり効果的かが分かるだろう」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

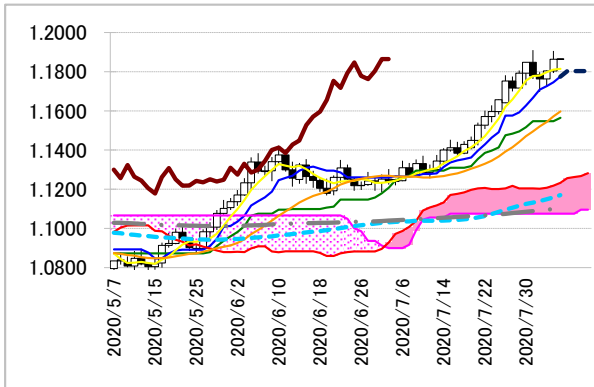


### <ドル円=戻しても基準線が抵抗に>

下影小陰線引け。105 円台で低下中の一目均衡表・転換線を下回ったところで下落の流れは停滞して戻した。しかし、強い反発力は感じられない。

転換線は本日 105.33 円まで切り下がったところでいったん下げ渋ることが予想される。ここから戻すことができるか見定める局面だが、上値に一目・基準線 105.99 円が抵抗として控えており、上昇を抑えることになりそう。

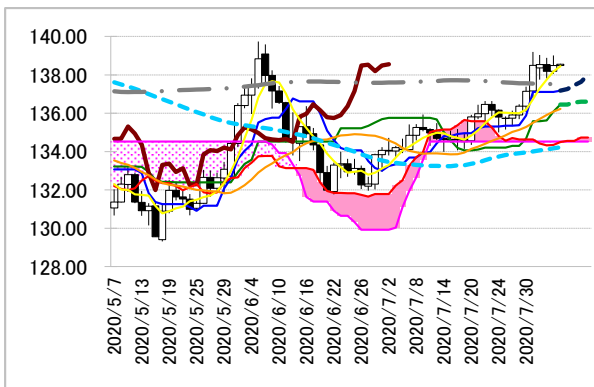
|          |                               |
|----------|-------------------------------|
| レジスタンス 2 | 106.47(8/3 高値)                |
| レジスタンス 1 | 105.99(日足一目均衡表・基準線)           |
| 前日終値     | 105.60                        |
| サポート 1   | 105.06(7/31-8/3 上昇幅の 61.8%押し) |



### <ユーロドル=支えとなる転換線は明日にも頭打ちに>

上影陽線引け。一時 3 日ぶりに 1.19 ドル台を回復した。しかし、高値は 1.1905 ドルにとどまっており、7 月 31 日つけた年初来高値 1.1909 ドルを抜くことができない。支えとなっている一目均衡表・転換線が、明日にも 1.1803 ドルで頭打ちとなる見込みに変化はない。伸び悩みから反落へ向かう展開への警戒が続く。

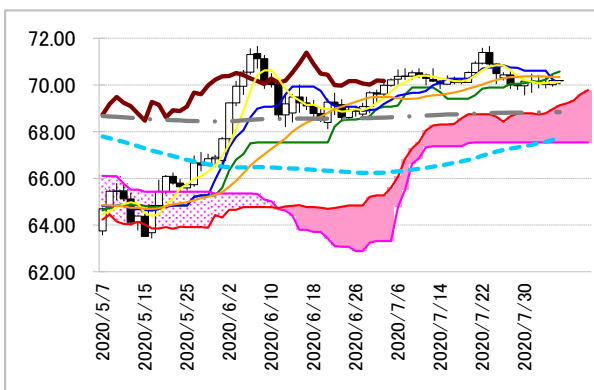
|          |                  |
|----------|------------------|
| レジスタンス 1 | 1.1905(8/5 高値)   |
| 前日終値     | 1.1863           |
| サポート 1   | 1.1814(5 日移動平均線) |



### <ポンド円=転換線が上昇再開、下落幅の拡大を防ぎそう>

上影小陽線引け。138 円付近の推移となっており、上昇中の 5 日移動平均線付近で底堅い。本日 138.45 円前後へ切り上がる 5 日線を割り込む場面もあるか。下押しが進んだ場合、137.51 円前後でじり安傾向の 200 日線は強いサポートになりにくいだろう。だが、横ばいから上昇を再開した一目均衡表・転換線がやや下に控えており、下落幅の拡大を防ぐとみえる。

|          |                |
|----------|----------------|
| レジスタンス 1 | 139.01(8/5 高値) |
| 前日終値     | 138.48         |
| サポート 1   | 137.81(8/4 安値) |



### <NZドル円=日柄を味方に転換線の抵抗克服へ>

上影小陽線引け。70 円台で低下中の一目均衡表・転換線付近で重い動き。転換線は本日 70.07 円へ低下。相場は横ばいだが、このまま同線を上回って推移しそう。日柄を味方に抵抗を 1 つこなし格好だ。次の抵抗は 70.33 円で低下傾向の 21 日移動平均線。同線をこなし、一目・基準線 70.58 円を回復できるか見定めることになる。

|          |                      |
|----------|----------------------|
| レジスタンス 1 | 70.76(ピボット・レジスタンス 2) |
| 前日終値     | 70.19                |
| サポート 1   | 69.67(7/31 安値)       |

